

国際金融パネル「アジア通貨制度の将来展望と円」

コーディネーター 明治大学 勝 悦子

< 報告要旨 >

EUでは、本年から各国法貨が消滅し、「ユーロ」が本格流通することとなった。これにより国際通貨制度はドルとユーロの二極体制へと移行することが見込まれている。旧東欧・ソ連、地中海沿岸諸国などの通貨はユーロと連動する度合いが高まっており、一方中南米諸国では、ドル化の動きがみられる。

翻ってアジア諸国の通貨制度をみると、将来的な通貨制度のヴィジョンが見えない状況にある。アジア通貨・金融危機以降、アジアの通貨制度は、変動相場制に移行したグループ、固定相場制のグループ、バスケット通貨制を採っているグループの三つのグループに分化した。しかし、変動相場制に移行した通貨も、マレーシアがドルとの固定相場に回帰したことを契機に、再びドルとの相関が強まっている。円の国際化は一向に進まず、今後はWTO加盟を果たした中国元の行方がアジア通貨制度に大きく影響を与える可能性もある。

一方でアルゼンチンやトルコの通貨危機に見られるように、エマージングマーケットにおける為替制度の選択の問題もクローズアップされている。国際資本取引が激増している現代においては、固定相場はリスクの高い選択肢であり、また地域統合が強まるなかで、域内通貨の安定性も考慮に入れなければならない。最近の円安の進行や、中国が将来的により柔軟な為替制度になるといった、不透明な要素もある。

本パネルでは、これらの状況を踏まえて、「アジア通貨制度の将来展望と円」というテーマの下で、アジア通貨制度の将来展望を試みる。また、日本の通貨戦略や円の国際化についても議論する。

まず三人の報告者（伊藤隆敏氏、関志雄氏、吉富勝氏）から「アジア通貨制度の将来展望」「中国元の行方」などのテーマで、ご報告をいただく。その後、お二人の討論者（小川英治氏、石田和彦氏）からご討論をいただく。後半では、ドル化かバスケット通貨制度か、円の通貨戦略（円の国際化の可能性、円安政策等）、中国元の行方など、いくつかの論点に絞って、5名の方でパネル・ディスカッションを行う。わが国通貨政策についての政策提言に結びつけることを目的に議論を深める。

以上